



機能設定の管理

Active IQ Unified Manager 9.9

NetApp
January 31, 2025

目次

機能設定の管理	1
ポリシーベースのストレージ管理	1
APIゲートウェイ	2
非アクティブ時のタイムアウト	2
Active IQ ポータルイベント	2
セキュリティダッシュボード	3

機能設定の管理

[機能設定] ページでは、Active IQ Unified Manager の特定の機能を有効または無効にできます。ポリシーに基づいたストレージオブジェクトの作成と管理、API ゲートウェイの有効化、アラート管理用スクリプトのアップロード、非アクティブ時間に基づく Web UI セッションのタイムアウト、Active IQ プラットフォームイベントの受信停止などが含まれます。



[機能の設定] ページは、アプリケーション管理者ロールを持つユーザーのみが使用できます。

スクリプトのアップロードについては、を参照してください [スクリプトアップロードを有効または無効にします](#)。

ポリシーベースのストレージ管理

ポリシーベースのストレージ管理 * オプションを使用すると、サービスレベル目標（SLO）に基づいてストレージを管理できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

この機能をアクティブ化すると、Active IQ Unified Manager インスタンスに追加された ONTAP クラスタのストレージワークロードをプロビジョニングし、割り当てられたパフォーマンスサービスレベルとストレージ効率化ポリシーに基づいてワークロードを管理できます。

この機能のアクティブ化または非アクティブ化は、* General * > * Feature Settings * > * Policy-Based Storage Management * から選択できます。この機能をアクティブ化すると、次のページで操作と監視を行うことができます。

- プロビジョニング（ストレージワークロードのプロビジョニング）
- * ポリシー * > * パフォーマンスサービスレベル *
- * ポリシー * > * ストレージ効率化 *
- クラスタセットアップページのパフォーマンスサービスレベルで管理されるワークロードの列
- ダッシュボード上のワークロードのパフォーマンスパネル *

画面を使用して、パフォーマンスサービスレベルとストレージ効率化ポリシーを作成したり、ストレージワークロードをプロビジョニングしたりできます。割り当てられたパフォーマンスサービスレベルに準拠したストレージワークロードと準拠しないストレージワークロードを監視することもできます。ワークロードのパフォーマンスとワークロードの IOPS パネルでは、データセンター内のクラスタの合計容量、使用可能容量、使用済み容量、およびパフォーマンス（IOPS）を、プロビジョニングされたストレージワークロードに基づいて評価することもできます。

この機能をアクティブ化したら、Unified Manager REST API を実行して、* メニューバー * > * ヘルプボタン * > * API ドキュメント * > * ストレージプロバイダ * カテゴリからこれらの機能の一部を実行できます。また、ホスト名またはIPアドレスとURLをの形式で入力してREST API ページにアクセスすることもできます

<https://<hostname>/docs/api/>

APIの詳細については、を参照してください "[Active IQ Unified Manager での作業の開始](#)"。

APIゲートウェイ

APIゲートウェイ機能を使用すると、ONTAPを個別にログインせずに、複数のActive IQ Unified Manager クラスタを一元的に管理できます。

この機能は、Unified Manager に最初にログインしたときに表示される設定ページから有効にできます。または、*一般*>*機能設定*>*APIゲートウェイ*からこの機能を有効または無効にすることもできます。

Unified Manager REST API と ONTAP REST API は別のものであり、Unified Manager REST API を使用して ONTAP REST API のすべての機能を利用できるわけではありません。ただし、Unified Manager では提供されていない特定の機能を管理するために ONTAP API にアクセスする必要がある場合は、APIゲートウェイ機能を有効にして ONTAP API を実行できます。ゲートウェイは、ヘッダーと本文の形式を ONTAP API と同じにすることで、API 要求をトンネリングするプロキシとして機能します。Unified Manager のクレデンシャルを使用して特定の API を実行することで、個々のクラスタのクレデンシャルを渡すことなく ONTAP クラスタにアクセスして管理することができます。Unified Manager は単一の管理ポイントとして機能し、Unified Manager インスタンスで管理される ONTAP クラスタ全体で API を実行できます。API から返される応答は、対応する ONTAP REST API を ONTAP から直接実行した場合と同じです。

この機能を有効にしたあと、*メニューバー*>*ヘルプボタン*>*APIドキュメント*>*ゲートウェイ*カテゴリから Unified Manager REST API を実行できます。また、ホスト名またはIPアドレスとURLをの形式で入力してREST APIページにアクセスすることもできます <https://<hostname>/docs/api/>

APIの詳細については、Active IQ Unified Manager API 開発者ガイドを参照してください。

非アクティブ時のタイムアウト

Active IQ Unified Manager に非アクティブ時のタイムアウト値を指定できます。非アクティブな状態が指定した時間を経過すると、アプリケーションは自動的にログアウトされます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

この機能を非アクティブにするか、*一般*>*機能設定*>*非アクティブタイムアウト*から時間を変更できます。この機能をアクティブにしたら、システムが自動的にログアウトするまでの時間制限（分単位）を*logout after*フィールドに指定する必要があります。デフォルト値は4320分（72時間）



Security Assertion Markup Language (SAML) 認証を有効にしている場合は、このオプションを使用できません。

Active IQ ポータルイベント

Active IQ ポータルイベントを有効にするか無効にするかを指定できます。この設定を有効にすると、Active IQ ポータルでシステム構成やケーブル配線などに関する追加のイベントが検出されて表示されます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

Active IQ Unified Manager でこの機能を有効にすると、Active IQ ポータルで検出されたイベントが表示されます。イベントは、すべての監視対象ストレージシステムから生成された AutoSupport メッセージに対して一連のルールを実行することによって作成されます。これらのイベントは Unified Manager の他のイベントとは異なり、システム構成、ケーブル配線、ベストプラクティス、および可用性の問題に関連するインシデントやリスクを特定します。

この機能をアクティブ化または非アクティブ化するには、* 一般 * > * 機能設定 * > * Active IQ ポータルイベント * を選択します。外部ネットワークへのアクセスがないサイトでは、* Storage Management * > * Event Setup * > * Upload Rules * からルールを手動でアップロードする必要があります。

この機能はデフォルトで有効になっています。この機能を無効にすると、Active IQ イベントが Unified Manager で検出または表示されなくなります。無効にすると、この機能を有効にすると、クラスタタイムゾーンの事前定義された時刻（00：15）に Unified Manager がクラスタで Active IQ イベントを受信できるようになります。

セキュリティダッシュボード

Active IQ Unified Manager ダッシュボードのセキュリティパネルを有効または無効にできます。有効にすると、準拠の監視の設定、および関連するセキュリティイベントと管理アクションをカスタマイズすることもできます。



これらの設定を編集できるのは、管理者ロールのユーザだけです。

ONTAP クラスタ、Storage VM、およびボリュームのセキュリティ条件は、『NetApp ONTAP 9セキュリティ設定ガイド』に定義されている推奨事項に照らして評価されます。ダッシュボードのセキュリティパネルには、クラスタ、Storage VM、およびボリュームのセキュリティコンプライアンスステータスが表示されます。この機能を有効にすると、セキュリティ違反が発生しているクラスタまたはStorage VMのセキュリティイベントも生成されます。

設定のカスタマイズ

この機能を有効にすると、ONTAP 環境に応じて準拠の監視設定をカスタマイズできます。これらの設定により、関連するセキュリティイベントおよび管理アクションがトリガーされます。次の手順を実行します。

1. [カスタマイズ]をクリックします。Customize Security Dashboard Settings（セキュリティダッシュボード設定のカスタマイズ）ポップアップが表示されます。
2. ONTAP クラスタのカスタム設定を有効または無効にするには、クラスタの一般設定*を展開します。クラスタコンプライアンスをカスタマイズするためのオプションについては、を参照してください [クラスタコンプライアンスのカテゴリ](#)。
3. Storage VMのカスタム設定を有効または無効にするには、Storage VMの一般設定*を展開します。Storage VM コンプライアンスをカスタマイズするためのオプションについては、を参照してください [Storage VM コンプライアンスのカテゴリ](#)。
4. ONTAP からのAutoSupport メッセージの送信にHTTPS転送を使用するかどうかも指定できます。
5. 認証設定を有効にすると、デフォルトのONTAP 管理者ユーザに対してUnified Managerからアラートが生成されます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。